

# 漁船「瀬谷丸」ハマ寄港

## 偶然重なり 6月の開港祭に

### 大槌へ募金で贈呈「間近で見えて」

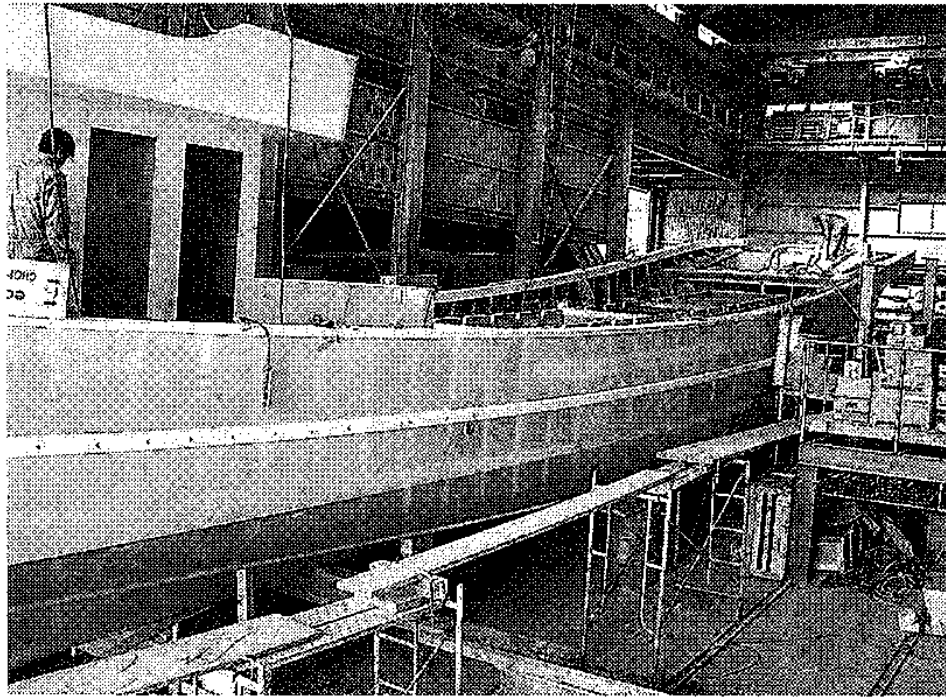
被災地の漁師のために横浜市瀬谷区の有志が集めた募金で建造中の漁船が、6月の贈呈式の前に横浜港に立ち寄る見通しになった。九州の造船所から被災地に回航する途中で、横浜開港祭のイベントの一環としてお披露目する計画。完成時期が早まり、タイミングが偶然重なった。募金に協力した横浜の人たちに「形になった善意」を間近で見てもらう機会になる。

(鈴木 達也)

有志でつくる「三陸沖に『瀬谷丸』を！」実行委員会はもともと、単なる募金集めではなく形になるものを贈ろうという狙いで始まった。岩手県大槌町の漁師から「仕事がしたい。船が欲しい」と聞いたのがきっかけだった。

補助金を合わせれば19トンの新造船を購入できる3千万円を目標額に設定。実物の漁船を被災地に贈ろうという呼び掛けに、昨春の3カ月足らずの間に362万5千1079円が集まった。すでに資金は大槌町側に届けられ、熊本県の造船所で建造が進んでいる。

実行委は大槌町での式典も計画。募金に協力した人たちに立ち会ってもらおう



熊本県の造船所で建造中の「瀬谷丸」。船体はほぼ完成している（新おおつち漁協提供）

めに、瀬谷からバスを仕立てた。7月の完成予定が1カ月ほど早まるとの連絡を受

けたのは、その矢先のことだった。

話を伝え聞いた横浜開港祭の関係者から、第32回開港祭（6月8、9日）への参加を打診された。たまたま九州から大槌町に回航する時期と重なり、給油目的で横浜に寄港する方向で調整している。引き渡す前のお披露目は義理を欠くとの意見もあったが、町側の理解も得られたという。

募金活動には瀬谷区内の商店や企業などのほか、小学校を通じた古本集めなどの形で子どもたちも協力した。実行委の露木晴雄会長（33）は「自分たちの小さな気持ちが大槌町に届く。その船を横浜でお披露目できる」と奇遇に喜ぶ。

船名を「瀬谷丸」とする約束をしているだけで、デザインや仕様などは全て大槌町側に任せている。2月に造船所を訪れた新おおつち漁業協同組合の下村義則組合長によると、船体はほぼ完成し、船室やエンジンなどを取り付ける工程に入っているという。